

令和元年度第1回「三重県2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会
関連事業推進本部」会議概要

日 時：令和元年9月25日（水）9:45～10:00

場 所：県庁3F プレゼンテーションルーム

1 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に係る最近の主な動き
事務局から、資料1により主な動きを説明

2 令和元年度上半期の取組状況及び下半期の取組予定
部局長から資料1、資料2により取組概要を説明

辻国体・全国障害者スポーツ大会局長

- ・（資料2 1）キャンプ地誘致の取組について、上半期には、四日市市がカナダ女子体操、鈴鹿市でカナダアーティスティックスイミングチーム、伊勢市がラオスパラ陸上チームの受入れと、志摩市がスペインライアスロン連盟と事前キャンプに関する協定を締結した。下半期は、津市でカナダレスリングチームの事前キャンプを10月5日から受入れ、鈴鹿市で、英国パラスイミングチームの事前キャンプの受入れについて1月で調整している。
- ・ 聖火リレーについて、6月1日に東京2020オリンピック聖火リレーに係る県内ルートや日程等を発表し、詳細ルートが12月頃に公表となる予定である。
- ・ 聖火ランナーについて、7月1日から8月31日まで募集したところ、1市町1名で29名の公募枠に対し1600名余りの応募があった。10月18日に開催する聖火ランナー選定委員会において案を作成し、年内に正式決定する見込みである。
- ・ 特にオリパラ関係ではキャンプ地について、地元との交流を通じてオリンピックの気運醸成に努めたい。また、聖火リレーについて、各地の魅力を発信できるように、各種イベント等において各自治体の支援とともに、県内全域にわたり警備や交通規制等において、警察本部をはじめ、多くの方にご協力をお願いする。

大橋子ども・福祉部長

- ・（資料2 2）東京2020パラリンピック競技大会実施競技について、競技性のある全国大会や世界大会への出場をめざしている選手を対象に、理学療法士や競技指導者等が一体となって作成した練習プログラムを提供し、競技力の向上に取り組んでいる。

- ・ 三重県在住の国内競技団体強化指定選手に対し、強化合宿や国内・国外の大会に参加する旅費の一部を補助している。
- ・ 下半期についても、引き続き、競技性のある障がい者スポーツに取り組むパラリンピックアスリートを支援するとともに、この東京2020パラリンピック競技大会の機会を生かして、とこわか大会の準備だけではなく、障がい者スポーツの裾野の拡大や県民の障がいのある方への理解促進に向けて取り組む。

井戸畑環境生活部長

- ・ (資料2-3) 県立文化施設等の講演や展覧会、イベント等については、「beyond2020プログラム」の認証を受け、文化庁のポータルサイトで国内外へ発信している。下半期の取組として、Mie Mu と、斎宮歴史博物館それぞれ周年の記念特別展を開催する。これらの特別展についても、「beyond2020プログラム」の認証を受けている。
- ・ 県が認証した事業については、県ホームページに掲載し、8月には、県・市町文化連絡会議を開催し、「beyond2020プログラム」への申請について働きかけ実施している。下半期についても、「beyond2020プログラム」の仕組みのメリット等を説明し、活用を促進していく。

前田農林水産部長

- ・ (資料2-4) 東京オリ・パラに向けた総合推進事業では、GAP等認証食材を中心とした県産食材の活用促進のため、食品メーカーと連携した取り組みを実施した。また、首都圏のラグジュアリーホテルを含む大都市圏の3ホテルと連携した三重県フェアの開催に取り組んだ。下半期も引き続き、首都圏等をターゲットに三重県フェアを通じて県産農林水産品の認知度や評価の向上を展開していく。
- ・ カナダアーティスティックスイミングチームの歓迎レセプションにおいて、GAP等認証食材を使用した料理を提供した。下半期は、食材調達を担うケータリング事業者を対象とした産地視察や試食商談を予定している。
- ・ GAP関係について、引き続き指導員を育成する研修会を開催するとともに、GAP認証食材、農福連携野菜等を使用したメニューを提供する三重県フェアを11月から積極的に実施していく。

廣田教育長

- ・（資料2 3）スポーツ庁のオリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業において、推進指定校として、小学校3校、中学校2校、高等学校1校、特別支援学校1校が指定を受けた。下半期は、推進指定校において県に所縁のあるオリンピックやパラリンピアンを招いて講演会などを開催予定である。
- ・ 特別支援学校のボッチャ大会を、身体障がい者総合福祉センターにおいて開催し、5校から23名の生徒が参加した。下半期はボッチャなど、障がい者スポーツに係る出前授業等を実施していく。
- ・（資料2 4）三重テラスで行われたGAP食材フェアに久居農林、伊賀白鳳、明野の3高等学校が参加し、GAP食材のPRに取り組んだ。

河口観光局長

- ・（資料2 6）海外誘客推進プロジェクト事業であるが、上半期はFIT向け情報発信として「#VisitMieキャンペーン」を7月7日から開始し、1月6日まで実施する予定である。また、6月から「ミシュランガイド愛知・岐阜・三重2019特別版」英語版Webサイトの公開を始めている。下半期はゴルフツーリズムとして欧米豪の高所得者層向けゴルフ訪日旅行創出事業の実施を予定している。
- ・ 三重県版観光スマートサイクル確立事業として、下半期にインバウンド向け観光PR動画の作成・配信を予定している。
- ・ 大阪で開催されるツーリズムEXPO ジャパン2019において、忍者文化等をPRし、来年度以降の外国人旅行者の誘客に取り組んでいく。

3 「応援村 OUEEN-MURA」について

事務局から、資料3により応援村の概要、資料4、5により応援村部会の設置に伴う関連事業推進本部設置要綱の改正及び応援村部会の新設に係る要綱について説明

福永戦略企画部長

- ・ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会で盛り上がった気運、熱気を、三重とこわか国体・とこわか大会へ繋げるため、今後県内における応援村の設置を促進する応援村部会をこの本部に設け、取り組んでいくこととする。

4 知事コメント

- ・ 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会まで開催1年を切り、折りしも今日は、三重とこわか国体の開催を2年後に控える節目の日である。両方とも大成功につながるようしっかり取り組んでほしい。
- ・ 報告のあった情報発信、県産食材のプロモーション、誘客、聖火リレーや事前キャンプ地誘致等の取組について、それぞれバラバラに展開するのではなく、聖火リレーの時に情報発信はどうするか、また、事前キャンプ地誘致の時に県産食材のことをどうするかなど、それぞれの部局がしっかりクロスして、それぞれの機会を最大限使って、限られた時間の中で、日単位でスケジュールを考えて、最も効果的な方法で、戦略的に取り組んでほしい。
- ・ 「応援村」については、三重県においても市町と連携して気運を盛り上げ、その熱気を翌年の三重とこわか国体・とこわか大会に繋げていけるように、各部局においてしっかり検討し、県をあげて取り組んでほしい。

ラグビーワールドカップのように、始まったら急に盛り上がるようなところがある。応援村の話は、なかなかどうしていったらいいのかといった部分があるかもしれないが、粘り強くしっかり連携して盛り上がるように。始まったら必ず盛り上がるので、そういった観点で粘り強く良いものになるように練りこんでいてほしい。

以 上